
未定

弥一

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

未定

【Nコード】

N9117Y

【作者名】

弥一

【あらすじ】

幼い頃から死者を見ることが出来る少年の物語…
ちよつとBLかな

（前書き）

初めて書きます。

いろいろとヤバいと思いますが……！
よろしく願います（<―>）ゝ

「ねえ父さん、僕、犬を飼いたい」

僕は、ひげ剃りをしている父に言った。

心の中まで見通すような鳶色の瞳が、じっと僕を見つめている

「…犬か」

「え？」

「犬を飼いたいのか？」

なぜか悲しそうな顔をする。

「うん…」

やっぱりダメなのかな…

「なぜ急に、犬を飼いたいなんて言い出すんだ？」

ドキッ。バレてしまったのか？

「べつに…なんなくだよ」

父は僕と視線を合わせて言った。

「しっかり面倒みれるのか？犬はオモチャなんかじゃなく、飽きたからと行って捨てることは出来ないぞ。餌をあげたり散歩をしたり、ウンコもとらないと行けない。とっても面倒臭いんだよ。」

「知ってる。大丈夫だよ、父さん。僕ちゃんと世話出来るもん。」

だから、お願い」

「…わかった。母さんに言うておくよ。そのかわり、ちゃんと世話するんだぞ」

そういつて父は笑った。

「うん。ありがとう、父さん！大好き！」

僕は父の首にしかみついた。

突然、父は僕の手を振りほどき、立ち上がると靴ん履いた。あれは、よそ行きの靴だ。

「父さん！どこにいくの？」

返事は返ってこない。

「ねえ！父さん！！」

もう父が帰って来ない気がした。

イヤだ。イヤだ。イヤだ。

なぜか、身動きが出来ない。

「父さん！父さん！行かないで！」一度も振り返ることもなく、父の背中が小さく消えていく。

父さん、なんで？

僕にがっかりしたのかな？

…僕が他の子と違うから？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9117y/>

未定

2011年11月27日10時54分発行